

九州大学工学部

同上

正員 ○ 横木 武

楊勲 徳

1. 緒言 トンネル非定常湧水問題の解析手法の確立に当つては種々の内容手法が考えられるが、本研究では複雑なトンネル地山のむづ複雑な透水特性および境界条件を適用し、計算式を構成する。しかし、計算方法の検討において、解析手法を提案することを目的として、定常湧水問題に対する開発した著者らの置き有限要素法<sup>1)</sup>の改良版を企図するものである。

## 2. 解析理論 非定常湧水問題のFEM基礎式

式(1)に次式をよどみる。

$$-KH + Q - (E+F) \frac{\partial H}{\partial t} - J \frac{\partial u}{\partial t} = 0 \quad (1)$$

ここで、 $H$ : 水頭、 $Q$ : 透水係数、 $E$ : 壓力、 $F$ : 地下水の圧縮性マトリックス、 $J$ : 自由水面変化の直角、自由水面に沿うる要素面積 $\tilde{A}$ を取る。

集積点での、 $J$ : 加速度の直角による係数マトリックス $J_m$

$$\begin{aligned} J_m &= \frac{\partial(x_{i-1}, z_i)}{6} \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & Z & 1 \\ 0 & 1 & Z \end{bmatrix} \text{ 透水係数、要素節点の座標値を} \\ &\text{内客と} T_3. \end{aligned}$$

とすると、解析領域を、図-1に示すように、相対する固定境界間に2つのブロック分割し、さらに、各ブロック毎に四辺形または三角形要素に分割するものとする。このとき、ブロック $(i-1)-(i-1), i-i' 2'$ を構成するブロック $(i-1)$ を取り出し、その両端ブロック $i-1$ 上の節点 $i$ 、

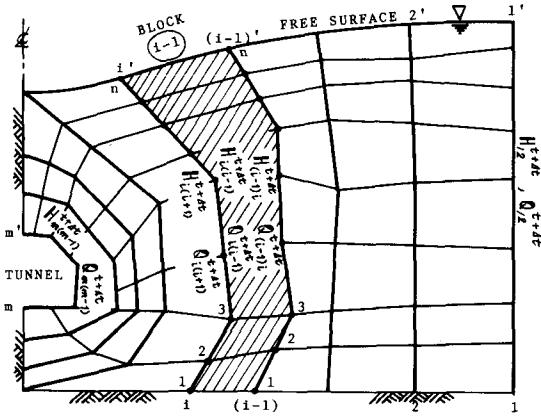


図-1

$i, i'$ における節点水頭、流量のベクトルを $(H_{i(i)}, Q_{i(i)})$ 、 $(H_{i(i')}, Q_{i(i')})$ と記号表すれば、式(1)より次式が得られる。ただし、式(1)の右辺第2項は省略した。

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} Q_{i(i)} \\ -Q_{i(i')} \end{bmatrix} &= \begin{bmatrix} K_{i(i)-i(i)} & K_{i(i)-i(i)} \\ K_{i(i)-i(i)} & K_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} H_{i(i)} \\ H_{i(i')} \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} -R_{i(i)} \\ R_{i(i)} \end{bmatrix} \quad \text{ただし、} R_{i(i)}, R_{i(i')} : \text{式(1)の右辺第2項} \\ &+ \begin{bmatrix} (E+f)_{i(i)-i(i)} & (E+f)_{i(i)-i(i)} \\ (E+f)_{i(i)-i(i)} & (E+f)_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} (\partial H / \partial t)_{i(i)-i(i)} \\ (\partial H / \partial t)_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \quad \text{左辺第2項と、式(1)の右辺第2項を除く他の節点} \\ &+ \begin{bmatrix} (E+f)_{i(i)-i(i)} & (E+f)_{i(i)-i(i)} \\ (E+f)_{i(i)-i(i)} & (E+f)_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} (\partial H / \partial t)_{i(i)-i(i)} \\ (\partial H / \partial t)_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \quad \text{右辺第2項と、式(1)の右辺第2項を除く他の節点} \end{aligned}$$

時間 $t$ : 対応離散化の $T_i$ 、Crank-Nicolson法を適用し、式(2)を $t+\alpha \Delta t$  (ただし、

$0 \leq \alpha \leq 1$ ) におけるとおりとする。

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} \alpha Q_{i(i)}^{t+\Delta t} + (1-\alpha) Q_{i(i)}^t \\ -\alpha Q_{i(i')}^{t+\Delta t} - (1-\alpha) Q_{i(i')}^t \end{bmatrix} &= \begin{bmatrix} K_{i(i)-i(i)} & K_{i(i)-i(i)} \\ K_{i(i)-i(i)} & K_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha H_{i(i)}^{t+\Delta t} + (1-\alpha) H_{i(i)}^t \\ \alpha H_{i(i')}^{t+\Delta t} + (1-\alpha) H_{i(i')}^t \end{bmatrix} \\ &+ \begin{bmatrix} (E+f)_{i(i)-i(i)} & (E+f)_{i(i)-i(i)} \\ (E+f)_{i(i)-i(i)} & (E+f)_{i(i)-i(i)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha(\frac{\partial H}{\partial t})_{i(i)-i(i)}^{t+\Delta t} + (1-\alpha)(\frac{\partial H}{\partial t})_{i(i)-i(i)}^t \\ \alpha(\frac{\partial H}{\partial t})_{i(i)-i(i)}^{t+\Delta t} + (1-\alpha)(\frac{\partial H}{\partial t})_{i(i)-i(i)}^t \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} -\alpha R_{i(i)}^{t+\Delta t} - (1-\alpha) R_{i(i)}^t \\ \alpha R_{i(i)}^{t+\Delta t} + (1-\alpha) R_{i(i)}^t \end{bmatrix} \quad (3) \end{aligned}$$

ここで、 $K, E, f$ は時刻 $t+\Delta t$ における解析領域 $i$ に対する値である。

他方、時刻 $t+\Delta t$ と $t$ における $H$ に関する式を仮定する。

$$H^{t+\Delta t} = H^t + (\frac{\partial H}{\partial t})^t \Delta t - \alpha \{ (\frac{\partial H}{\partial t})^{t+\Delta t} - (\frac{\partial H}{\partial t})^t \} \Delta t \quad (4)$$

式(4)を式(3)に代入する。演算整理すれば

$$P_{i(i)-i(i)} = \begin{bmatrix} -\alpha^{-1} Q_{i(i)}^t & \alpha Q_{i(i)}^t \\ -\frac{1}{\alpha} (Q_{i(i)}^t Q_{i(i)}^t - Q_{i(i)}^t Q_{i(i)}^t) & -Q_{i(i)}^t Q_{i(i)}^t \end{bmatrix}, C_{i(i)-i(i)} = \begin{bmatrix} Q_{i(i)}^t & n \mathbf{0}_n \\ -\frac{1}{\alpha} Q_{i(i)}^t Q_{i(i)}^t & \frac{1}{\alpha} I_n \end{bmatrix}, \mathbf{V} = \begin{bmatrix} H \\ \mathbf{0} \end{bmatrix} \quad \text{(状態ベクトル)}$$

$$\tilde{\mathbf{V}}_{i(i)-i(i)}^t = A_{i(i)}^t P_{i(i)-i(i)}^t \mathbf{V}_{i(i)}^t + B_{i(i)}^t P_{i(i)-i(i)}^t \mathbf{V}_{i(i)}^t + C_{i(i)-i(i)}^t A_{i(i)}^t \mathbf{V}_{i(i)}^t, \quad n \mathbf{0}_n: (n \times n) \text{次の単位および零マトリックス},$$

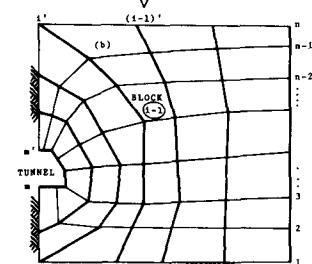
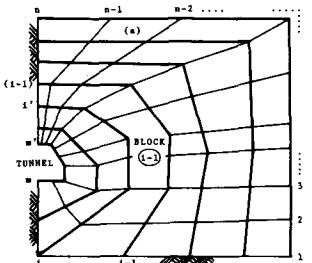


図-2

$$A_{(i-1)i} = \begin{bmatrix} -\alpha_{(i-1)i}^{-1} b_{(i-1)i} & 0_n \\ \frac{1}{\alpha} (\alpha_{ii} \alpha_{(i-1)i}^{-1} b_{(i-1)i} - b_{ii}) & (1-\frac{1}{\alpha}) 0_n \end{bmatrix}$$

$$B_{(i-1)i} = \begin{bmatrix} -\alpha_{(i-1)i}^{-1} b_{(i-1)i} & (1-\alpha) \alpha_{(i-1)i}^{-1} \\ \frac{1}{\alpha} (\alpha_{ii} \alpha_{(i-1)i}^{-1} b_{(i-1)i} - b_{ii}) & (1-\frac{1}{\alpha}) \alpha_{(i-1)i}^{-1} \end{bmatrix}$$

$$a_{ij} = \alpha R_{ij} + (e+f)_{ij}/dt, \quad b_{ij} = (1-\alpha) R_{ij} + (e+f)_{ij}/dt,$$

$$\Lambda_{(i-1)i}^t = \begin{cases} -\alpha R_{(i-1)i}^{tot} - (1-\alpha) R_{(i-1)i}^t \\ \alpha R_{(i-1)i}^{tot} + (1-\alpha) R_{(i-1)i}^t \end{cases}$$

式(5)の左辺、プロット(i-1)における時間t+dtと右辺  
右辺プロット(i-1), (i-1)-(i-1)'における西北面ベクトルの関係を示すもので、非定常湧水問題の格間式である。

次に、プロット(i-1-i')に着目する。任意の時刻t、プロット(i-1)側面のプロット側面における節点水頭および節点流量を考慮すれば、下記の式が成立する。 $H_{i(i-1)}^{tot} = H_{i(i-1)}^t$  が成立する。また、K1K2支点から  $Q_{i(i-1)}^{tot} = Q_{i(i-1)}^t$  が成立する。したがって、北面ベクトルH1に因る  $V_{i(i-1)}^{tot} = V_{i(i-1)}^t$  が式(5)より得られる。

$$V_{i(i-1)}^{tot} = P_{i(i-1)} V_{i(i-1)}^t + V_{i(i-1)}^t \quad (6)$$

ここで、 $V_{i(i-1)}^t = A_{i(i-1)} V_{i(i-1)}^{tot} + B_{i(i-1)} V_{i(i-1)}^t + C_{i(i-1)} \Lambda_{i(i-1)}^t$   
プロット(i-1), m-m'における固定境界条件より  
 $A_{i(i-1)} = 0$  とおき得る。  
式(7)：  $V_{i(i-1)}^{tot} = B_{i(i-1)} \left\{ \begin{array}{l} \Theta_{12}^{tot} \\ 1 \end{array} \right\} \quad (7)$   
式(8)：  $B_{i(i-1)} V_{i(i-1)}^{tot} = H_R^{tot} \quad (8)$

3. 解析手順 プロット(i-1-i')側から相鄰する  
プロット(i-1)における式(6)の伝達式を取る、その式から順次前進的に代入して得られる各プロット(i-1)上の北面ベクトルが(1)式である。

(1)式は、下流端プロット(m-1)の上流端面に因る北面ベクトル  $V_{(m-1)m}^{tot}$  をプロット(m-1)の右端式に代入し、その結果を式(8)に代入すると  
式(8)：  $V_{(m-1)m}^{tot} = H_R^{tot} \quad (9)$  となる。式(9)を用いて  $V_{(m-1)m}^{tot}$  を未知とする基本連立方程式を算定すれば式(8)が得られる。

ところが、式(9)の計算では、K, e, f を求めるには(1)式の時刻t+dtにおける解釈領域(初期状態)を考慮する必要がある。かかるに、この解釈領域は最初未知であるから、式(9)は予測子修正子法による反復計算である。すなはち、本題の解析では、初期状態t=0の計算と、それ以後の各時間段階の計算とを分割法が異なる。すなはち、t=0~t-1は、初期状態であり(2)式(a)の分割内容である。しかし、t=t-1は自由水面の水頭が未知量となる基本式中で含まれるから(2)(b)の分割内容にはない。この分割の切り換りは、新規度の下記シールド、節点流量を導くように工夫せねばならない。

4. 対応例 図-3は木下湧水問題に対する本法の適用例で、自由水面の時刻的変化をプロットすれば同様である。また、図-4は湧水量の減衰状況を示すもので、90%減衰完了時の湧水平衡時間と定義する。

(参考文献) (1) CHISHAKI, T. and N.D. YANG : Two-Dimensional Analysis of Unconfined Groundwater Flow from a Tunnel Opening, Memories of the Faculty of Eng., Kyushu Univ., Vol.37, No.1, 1977, (2) 不透水、透水：隧道有限要素法：福井山岳出版社，1977, pp.243~281.

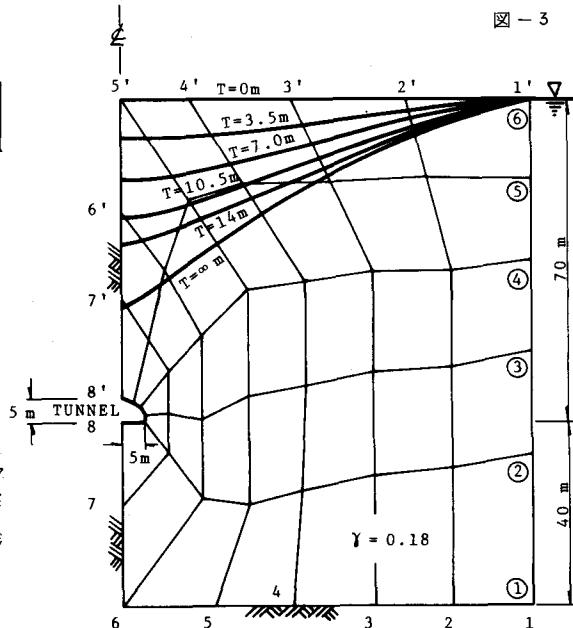


図-3

